

## 最上地区の県立高校再編整備に係る地域説明会記録要旨 【新庄市会場】

1 日 時 令和元年10月30日(水) 19:00~20:20

2 場 所 新庄市民文化センター

3 出席者 地域の方々98名

県教委 須貝教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員4名

4 内 容 生島室長から説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

(質問・意見)

- 10月31日開催の小規模校の在り方に係る懇談会(以下、「懇談会」という)のメンバー構成を教えて欲しい。

(県教委)

- 大学教授2名、県立高校の教職員2名、私立高校から1名、中学校教員1名、地域づくりの専門家1名、中高の保護者各1名、市町村の教育委員会1名の合計10名で構成されている。

(質問・意見)

- ① 連携型中高一貫教育校として、金山町立金山中学校は新庄南高校金山校(以下、「金山校」という)とともに頑張っている。少子化が進行する中、再編整備の必要性は理解できるが、これから高校に入学する中学生にとって不安のないよう再編計画を進めて欲しい。
- ② 令和3年3月に再編整備計画策定後、いつから計画実行となるのか。

(県教委)

- ① 地域の方々から意見を伺いながら丁寧な説明をしていきたい。
- ② 令和3年3月に再編整備計画策定後すぐに実施できるものもあると思われるが、統合となり新しい学校をつくる場合は、様々な準備があるため、開校まで4年~5年は必要と想定している。

(質問・意見)

- 最上地区の中学生が、どの程度他地区の高校へ流出しているか。また、最上地区の高校へ他地区の中学生がどの程度流入しているのか教えて欲しい。

(県教委)

- 今年3月に卒業した最上地区の中学校卒業生数のうち、最上地区の県立高校に63.0%、最上地区の私立高校に13.6%、庄内地区の高校に10.6%、東南村山地区の高校に6.8%、北村山地区の県立高校に3.1%進学している。また、最上地区の高校に入学した高校生のうち、最上地区の中学校からは92.3%、北村山地区からは6.3%入学している。

(質問・意見)

- 「学校の統廃合等に関する基本方針」の中に、1学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は、交通事情等の地域の実情に配慮しながら、原則としてその2年後に募集停止とある。地区内の3つの分校はいずれも、今年度の入学者が20

人を下回っており、来年度も入学者が20名に満たない分校があった場合、基本方針に基づいて募集停止となるのか。20人未満となったとしても、令和2年3月に公表される再編計画骨子案に基づき、存続する可能性があるのか。

**(県教委)**

- 3分校を含む小規模校の在り方に関しては、小規模校の所在する自治体への意見聴取や懇談会が出された意見を踏まえて、基準の見直しも含めて検討する。

**(質問・意見)**

- 新庄市内の高校を再編する際は、既存校舎の活用を想定しているのか。

**(県教委)**

- 新庄神室産業高校の校舎は新しいため、有効活用することとなるだろう。新庄北高校の校舎は、昭和47年の建設後、平成6年に大規模改修事業が施された。県内には、新庄北高校よりも築年数が経過している学校がいくつもある。校舎整備については、公共施設の長寿命化による活用が国及び県の方針として示されていることもあり、当面は既存校舎の活用が現実的な対応になると思われる。

**(質問・意見)**

- ① 志願倍率は、普通科が高く専門学科は低い。普通科高校と専門学科高校の2校に再編された場合、一方にのみ人気が集まってしまうのではないかと。2校ともに魅力のある高校となるよう再編整備して欲しい。
- ② どのような高校にするか検討する際には、日々子ども達と接している中学校や高校の先生の意見を幅広く取り入れて欲しい。

**(県教委)**

- ① 地域の産業を支える人材育成のためにも、工業科、農業科、商業科は必要な学科と認識しており、中学生に選択してもらえるよう時代に合った魅力ある高校づくりをしていきたい。
- ② これまでも、新高校の開校準備の段階で、中学校や高校の先生にもメンバーに加わってもらい新しい学校の教育コンセプトを検討してきた。最上地区においても、先生方から様々な意見をいただきながら検討していきたい。

**(質問・意見)**

- ① 小規模校の所在する自治体からの意見聴取では、どのような意見があったのか。
- ② 県内唯一の魅力ある新しい学科を設置すれば、他地区からも中学生が集まり活性化するのではないかと。

**(県教委)**

- ① 多くの自治体から、小規模校ならではの特色ある教育活動を踏まえて今後の在り方を検討して欲しいといった意見や、地域の活性化や雇用の確保等の面から高校の存続を求める意見をいただいた。
- ② 中学校3年生の段階で将来の職業を明確にしている生徒は少ないため、将来の職業に直結す

る専門に特化した学科を設置した場合、毎年40名の入学者を確保することは難しいのではないかと。また、高校卒業後の出口の保証も考慮しなければならない。また、新しい学科を設置する場合は、地域のニーズに合うのか慎重に検討しなければならないと考えている。今後の再編では、中学生が地区外の高校に流出しない魅力的な学校となるよう学校を整備したい。

**(質問・意見)**

- ① 島根県の隠岐島前高校は、島での魅力ある教育を実践しており、全国から生徒が集まり生徒数を増やしている。県外から生徒を募集することも考えられるのではないかと。
- ② この再編整備の時期にあわせて、東桜学館高校のような最新の設備が整った新校舎を建設して欲しい。

**(県教委)**

- ① 本県では、加茂水産高校、遊佐高校の2校で県外募集を行っている。直近5年間における最終倍率の平均値が1倍に満たない学科がある高校のうち、県内唯一の学科が設置されている学校、または1学級規模の学校で地域との連携が確立している学校が導入対象校となる。まず、学校や地域の実態を考えて所在する自治体と相談の上、校長から県教委に申請し、審査して承認された場合に県外募集が認められる。
- ② 東桜学館高校は、前身の楯岡高校の校舎が耐震性に問題があるため建て替えることとなった。校舎整備については、公共施設の長寿命化による活用が国及び県の方針として示されていることもあり、当面は既存校舎の活用が現実的な対応になると思われる。

**(質問・意見)**

- 「学校の統廃合等に関する基本方針」により、来年度の入学者が20名に満たない分校が募集停止となるのはいつからか。また、募集停止の基準に抵触した場合、学校の統廃合等に関する基本方針の中に「原則として」という文言があるため、様々な話し合いの後に募集停止が決定されると思われる。その分校に進学を考えている中学生のことも考えて募集停止の公表をして欲しい。

**(県教委)**

- 基本方針のルールに従えば、来年度の入学者が20名に満たない分校は、原則として令和4年から募集停止となる。3分校を含む小規模校の在り方に関しては、小規模校の所在する自治体への意見聴取や懇談会で出された意見を踏まえて、基準の見直しも含めて検討する。

**(質問・意見)**

- 募集停止の基準の中に交通事情に配慮という文言がある。最上地区内には、町の中心部の駅まで15～20km離れている地域がある。その地域に住む生徒が新庄市の高校まで通学するとなれば、遠距離通学となり、かなりの困難が想定される。再編整備により新庄市内の高校だけとなった場合、財政的なサポートは検討しているのか。

**(県教委)**

- スクールバスを運行する場合、小中学校と異なり、高校の場合は通学範囲が広域であるため

制度設計が大変難しい。また、特定の高校にスクールバスを導入した場合、その高校が生徒募集に有利になったり、公共交通機関への影響が生じたりするなどの問題がある。

(質問・意見)

- 学級数の削減が公表となるのはいつか。

(県教委)

- 昨年までは、中学生の進路選択に配慮して、学級減は2年前に公表してきたが、今年の3月には令和6年までの学級減を公表した。ただし、最上地区の学級減に関しては、令和2年3月に公表する予定としている。学級減の公表から実施となる時期まで、中学生が進路選択を十分に考える期間が確保できるよう配慮したい。

以上